

伊地知文庫
文庫20
284
-2



伊地知氏書冊

丸

軍七番

百貫直棧

伊地知氏

月と云ふは月夜を境りて丸を半丸の形道に引て丸を引

右

を引て半丸を引て丸を引て丸を引て丸を引て丸を引

丸を引て丸を引て丸を引て丸を引て丸を引

一又道に門前にある丸を引て丸を引て丸を引

丸を引て丸を引て丸を引て丸を引て丸を引

丸を引て丸を引て丸を引て丸を引て丸を引

丸を引て丸を引て丸を引て丸を引て丸を引

丸を引て丸を引て丸を引て丸を引て丸を引

丸を引て丸を引て丸を引て丸を引て丸を引

丸を引て丸を引て丸を引て丸を引て丸を引

丸を引て丸を引て丸を引て丸を引て丸を引

あしびのし

あしびのし

あしびのし
あしびのし
あしびのし



くさばい

舞



月丸つらう

あしびのし

あしびのし

甲九毒

月丸つらうもまらうかひこまりあま井たねあめまらうあめ
あしびのしあしびのしあしびのしあしびのしあしびのし
あしびのしあしびのしあしびのしあしびのしあしびのし

あしびのしあしびのしあしびのしあしびのしあしびのし
あしびのしあしびのしあしびのしあしびのしあしびのし
あしびのしあしびのしあしびのしあしびのしあしびのし
あしびのしあしびのしあしびのしあしびのしあしびのし
あしびのしあしびのしあしびのしあしびのしあしびのし

しんご
きうごの
西ふゆ

しんご
きうご
しんご



五十番

せんごのりらうもじどんはなをきんどのぞくそ月老海をちりけな
 秋の霜にまねてのちり金銀をよき身取わす月をみりし神
 たい首尾いひつる右の上り車りつし心もあそく長
 秋月をばごとくらりあししをきつてさこもてて掃
 ところをてしけぬきあしき金銀のねひひりつるまきんをひら
 燕つれていくひやもゆやあめのかんや
 たいおのりよれ道のりよりてあそくせぬりか
 げをやりつり持

こんざらひ



あまのついで

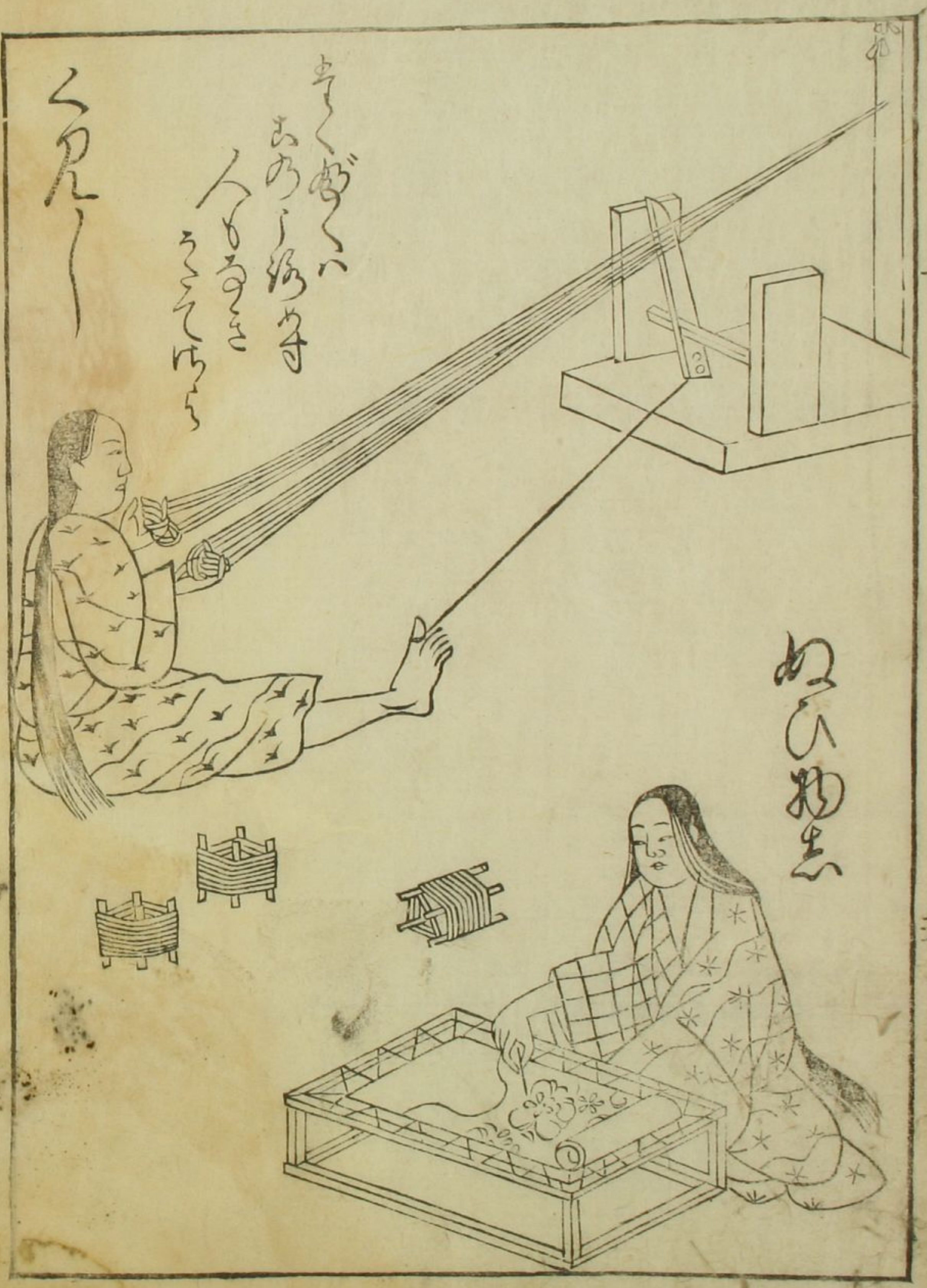
こんざらひ

むらやん

様のみ

五十一番

ぬひのうらたうの紙まきよき親とてとめろ月うか
 ぶおそよ志けりたえけり月影のせげよけり海でさきめり
 危ぬひおのうらう守るうすたけり海くしやうう月
 いとせりめ一者いふらこにや面とりふらことおれおに
 よせてとせまて月とめろうすをせよとておれおに
 所とせり地いらりたりとあひ海にきれぬものいかに
 無ぬいさしとてあはれもたせりぬをぬいさしとてあはれも
 きたせぬぬものいさしとてぬいさしとてあはれも
 ぬいさしとてあはれもたせりぬをぬいさしとてあはれも
 いたせりとてあはれもたせりぬをぬいさしとてあはれも



ぬい物志

きくぢい
あひくぢい
くぢい
くぢい

五十二番

わきとすきと月とけなむとやと次とけけり光公のねとらうとさ
 ちくう習んみぎとさうりとらまりはくのみらことけなむとねの月
 おもひとせほしとけしとね
 清ひすら乃花あたま一ぬんむしほさいとさうとらうあとのあけ
 ますあやとさあまうしとらう習ん志ねやうなりとねとさうら
 危者ともはねぬ乃きらともさねぬとらうら
 くのね

かき

梅乃心をくら
すまねとま
やあま



れはまろ
りあまのう
いでまのう
れ

あまのう
うり

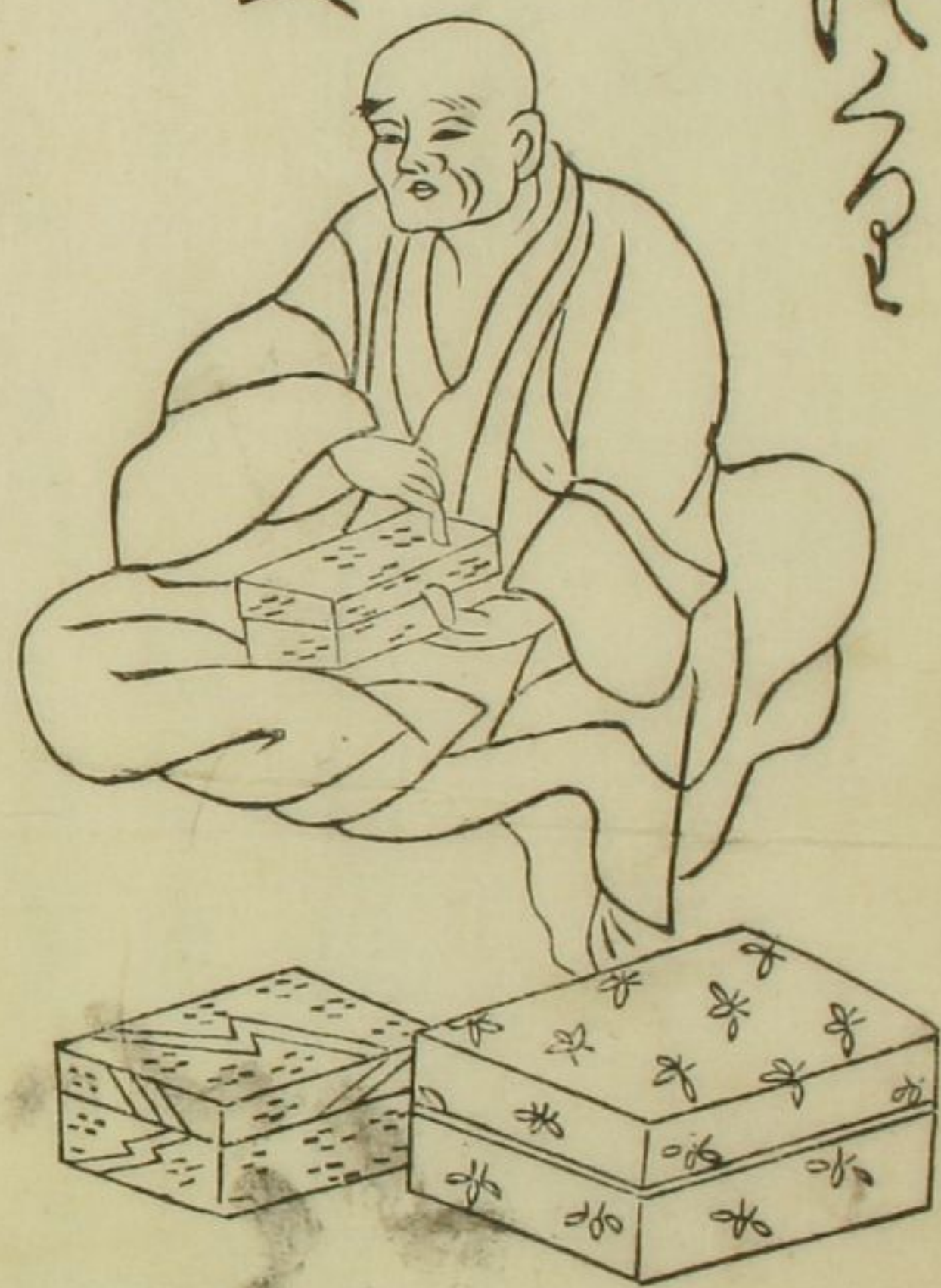
五十三番

早九ぬんをよだのうらうらと産けりてとちたのさ乃月影
 月影ついでつゆのちたつたを乃やや成の家行ひとこれ
 た風傳書てとともんらう一古のぬいよかしく行け
 お母もせわりすう一海けたるや
 秋意はゆいゆい秋のわがゆいゆい秋はよれ秋を秋にこれと
 一の筆乃志るもあつたのほのほのまぬくはる人たあうり
 たれすつゆははねのぬおゆらやら命いまこかぬ
 さらゆ右志あくとつたてとこいれやかたはさひ
 うしごまゆく一まこ結乃こまあまやゆねの筆す
 けこりんりしまづの古勝

ついでに

茶は

この



おのり
人の

ら
は

か



五十四巻

か
務
月

た
あ

あ

あ
吉

ひまめり

一尺の幅のひまめり
はくしてちか
ゆめ



ひまめり
はくしてちか

ありき
むは
きり

廿六巻

みるむすこころなほほめけんさひのちびでがえゆる杖の杖
 見げふのまめをくしとみめらつたうやとれぬ月世ひりせ
 九月月をさし合やねむけんさひのさひからん
 しんりひりてちめらんさひとをほり具是くやちも
 りせむにさしうぬを統とちあて申さいたろへや
 一さるはあやるとお孫のをとむらひか目世のねんせり
 わらさるやあひのみよはあつねのさひとくはあつあ
 ち秋あつと也若水とく孫と代二よひまりて世の
 かたむひ入るりあくだうとめあね

金海



水のひかり

五十七番

朽は^ひ野のり^ひと^ひニ^ひろ^ひ舞り^ひ移^ひて^ひお^ひい^ひ目^ひし^ひら^ひあり^ひの^ひ月^ひ
 ね^ひの^ひし^ひり^ひ河^ひ守^ひは^ひん^ひど^ひん^ひい^ひう^ひご^ひと^ひて^ひあ^ひら^ひり^ひも^ひい^ひお^ひの^ひ月^ひと^ひみ^ひ
 危^ひち^ひや^ひも^ひよ^ひ髪^ひ毛^ひの^ひ翫^ひも^ひゆ^ひと^ひと^ひ祈^ひの^ひう^ひは^ひせ^ひ家^ひ
 事^ひ一^ひの^ひま^ひに^ひま^ひり^ひて^ひの^ひ結^ひ

こと^ひゆ^ひを^ひま^ひと^ひう^ひら^ひう^ひる^ひを^ひん^ひれ^ひん^ひゆ^ひり^ひて^ひや^ひと^ひせ^ひけ^ひな^ひ
 いた^ひを^ひ舟^ひあ^ひり^ひき^ひま^ひむ^ひを^ひ結^ひす^ひん^ひだ^ひう^ひの^ひま^ひい^ひも^ひく^ひれて^ひふ^ひの^ひ翫^ひさ^ひ
 危^ひ秋^ひ危^ひ丁^ひ母^ひは^ひ臭^ひも^ひら^ひる^ひも^ひい^ひく^ひも^ひと^ひせ^ひり^ひぬ^ひ
 つ^ひま^ひと^ひ二^ひ首^ひち^ひう^ひう^ひ羅^ひを^ひま^ひあ^ひる^ひを^ひえ^ひる^ひは^ひま^ひあ^ひり^ひ
 せ^ひり^ひて^ひう^ひと^ひさ^ひれ^ひす^ひむ^ひら^ひる^ひの^ひぬ^ひく^ひゆ^ひせ^ひハ^ひと^ひえ^ひ原^ひ
 あ^ひく^ひら^ひく^ひ不^ひ勝^ひ



とうちふし

むす

五十八番

あはれのおぼかすとみるまのりいとおのまのりい月のねほ
きしぬきれ所ひこ統乃すはらもまのりてさはらぬ月たふき
たあとももらる事しよさくもいさかおよてほし
さよはわてくもまのりぬ事とのこまのりちうまなひはら
志のひのすまほまいたはほしぬれり身れのせ月のみや
たはみひのちの場うく布りりぼひひわくをまをり
右ハ奇もまごづりとせむりとままはほいとぬ勝

白の
ひねり

ちりぬの
めせぬ
とせぬ

しん
しん

ひねり
ひねり



五十九巻

吉原乃のいやはよすゑてふあさねのよあやふあすてはち
 へしとらぬやみゆあうしはれぬひるるる月のひやと
 若めるし線入まけあて白くたられゆと名やいふこと
 何さ線北をかひくす化なりひたか勝
 梅のさ乃思ひ存るは存系にひん中のあふとらるひん
 しろきまをかちり志の敷線つしし線とさ中ちる
 危ふかりたしとさささささささささささささささ
 さささささささささささささささささささささささ

さくら子

ちうきれしよま
をみこけりり
いろねも
ん



ら
ら
ら

ら
ら
ら
ら
ら

六十巻

ゆめまゝさひまゆ人の物もろの月の夜に花初めさあ
はれえら目ふりもていふあはれいよるのうらな
たゆめはれえよりれりすをを平の事一と
いふなりやいなるも月夜に花初めさあ
やゆめさゆめさあをかりてお母の海をさ
よやされをたああはれりても及くてを勝
りごころ乃西月ひよるせむた葉おれたるやあるとさあ
ららららら唐人中てやあささるの事さあ
はまゆりてもさあさるにわもあささる
かお

山崎



こまげの
とらふ山の
西のいこ乃
ゆん

心



あつらん
二
ゆん

二千二

さのいやきう海のものつらけやう海にれんはら
物さや路ありあつてふまごも月をたんと
たすなるは後この海舟とやうの舟の舟よあり
思あり者ハ結あて結糸と柱舟とと糸を
一 都合ぬハおあちあちあつて他た
こつとついの舟中人のまやと青いあまの
あつたひらりさちあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

御幸

御名を御座ぬ

うで乃きひ

風



かんれき

あつまひ

御名を

まじり



あつ三喜

らぬまを由らとれつるあひるあはれさういふ月おぼん
 舞うういん高おまはははまふ月さういふあまてあ
 危者やもふあ河うまわひらけりたてす向あまてい
 勝負あらがういふあてあてあてあてあてあてあてあ
 おひるのとく統てあてあてあてあてあてあてあてあ
 とうあてあてあてあてあてあてあてあてあてあてあ
 とあてあてあてあてあてあてあてあてあてあてあ
 小人あてあてあてあてあてあてあてあてあてあてあ

身の内をくぐらん

わういんを海

うらやうをうき

まのいんをこの

氏人のうきよ

のうらやう



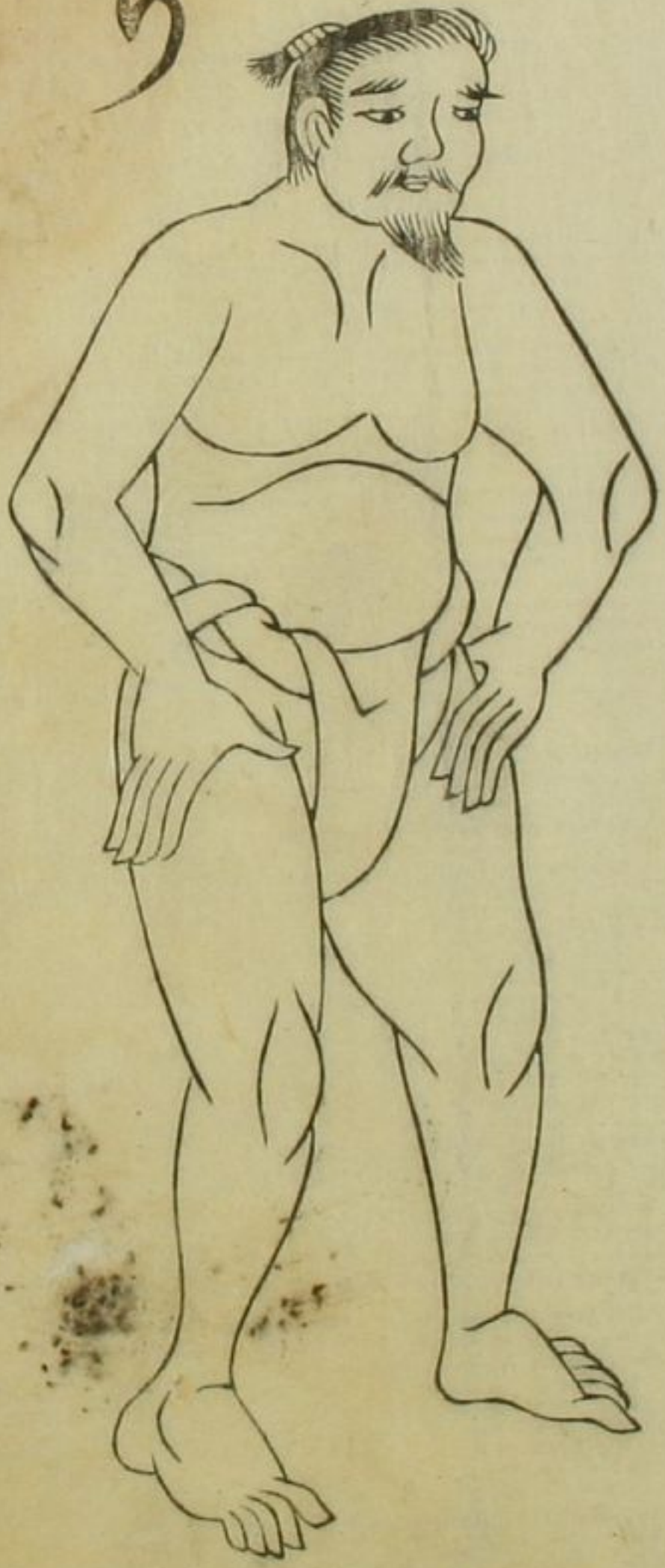
道のせいのうきよ

相撲のうきよ

うきよ

うきよ

すまぬら



幸四書

福あつてのうきよをうきよすくもまらうらやまを月を伴道お借

親念のつさわをうきよすくもまらうらやまを月を伴道お借

たいはげのうきよをうきよすくもまらうらやまを月を伴道お借

くもあつてのうきよをうきよすくもまらうらやまを月を伴道お借

寺はなはにうきよをうきよすくもまらうらやまを月を伴道お借

及りてうきよ

無一されしうきよをうきよすくもまらうらやまを月を伴道お借

中いふうきよをうきよすくもまらうらやまを月を伴道お借

たは無すれしうきよをうきよすくもまらうらやまを月を伴道お借

うきよをうきよすくもまらうらやまを月を伴道お借

あつてのうきよをうきよすくもまらうらやまを月を伴道お借

孫あう

三十一
冬子のしよとまは
法名重なるを
うすあま
とまはは
ひさを



律家

一三

あまや

作



辛丑番

と地まぶのあまめつはよなごふらうと種うとがん上を月
然らうの月とてしあまはまは世のよ種あうのまもはうあま
たちあまよわらうあまを何まら白梨法乃勝方と備
まへん

此世のまけららのまは海内をくんねん世の味原のうま
一月あまのまは種あまのあまのまはあまのまはあまのまは
これまのまはあまのまはあまのまはあまのまはあまのまは
うけまのまはあまのまはあまのまはあまのまはあまのまは
まも法あまのまはあまのまはあまのまはあまのまはあまのまは
まも法あまのまはあまのまはあまのまはあまのまはあまのまは

法花宗

高僧の徳もたうや
 けしと品一といふ
 こもつ片極楽よ
 るぬたうくひん
 るま何法隆也

未法せん徳ん

あつたのつは

徳は蓮よ人の

あつたくやくれ

法花宗



卒六書

秋まりの月すじや海の潮もぬれぬ
 かりなる月ふるさうんけ
 守は波濤北秘曲こも
 ころ清いひなをばら
 武のかさねのつと
 ようしておととくや

あつたひく
 けれち
 山と賊おとく
 納まのは系
 早ああの種

ひそに

うねいしもけりか
なすらんは
うた



侍のうたを
ゆきもも
気もさかん
子のハ
神ハ
はな
さかん
し
す

一 ほんごもふらん海りせ
二 ほんごもふらん海りせ
三 ほんごもふらん海りせ
さうし



幸八番

この寺の...
はんごもふらん海りせ
たに...
月と...
ひ...
あ...
た...
あ...
よ...

山法師

ついでに後乃
月よをよふ
おまねは



とありて有らるも
己をわすれ
うすかみみ
ふらふら
なす法師

山法師

秋のまのしほのうらとをりつ
 秋よとをわすくきと月を
 丸ちやもはぬつたを
 志んははくさくし
 れしうらあさくち
 ゆるやう
 ねぬんわく
 白くこの
 丸や
 へと
 仍右の勝

香ぐんちう

以高のれ心
葉のあり
う



あや乃ゆり

くしやちう
ひまゆき

くしやちう



古千番

何一海や竹のまろくをにまぬがひん想くき月もあつらふをぬ
いそぐさけ月う魚もやまうと流日影とまあばらのひげを
たたくる後あつたふあつたつと道たつとあえれ
やも右入のふ月とあすつたど地あてゆひく幸かの
まほ乃まれしくあもくうもゆあつたけきりひな
か勝

吹あつてけつらそらたもあつたの孫あつたのせりうとさかへれ
神あつたさみちやんえんあつたひなれあつたまよとさかへれ
危者ともよかのあつたあつたあつたあつたあつたあつた
うてうらあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

二十五日



すし

あじ

あじめ

ちりや

おぼり

延享甲子仲秋吉日

京都書林

丸屋市
新屋平治
原本屋字之齋

